

男女平等参画に関する  
西東京市民意識・実態調査  
報告書  
— 概要版 —

～ 西東京市第4次男女平等参画推進計画 基本理念 ～

一人ひとりが自分らしく自立し  
いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす

令和5年3月

西東京市

## ～ はじめに ～

この報告書（概要版）は、西東京市民の男女平等参画に関する意識や実態を把握し、「西東京市第5次男女平等参画推進計画」策定の基礎資料とすることを目的として実施したアンケート調査の主な結果をまとめたものです。市民の皆さんが男女平等参画について考える資料として活用していただくと幸いです。

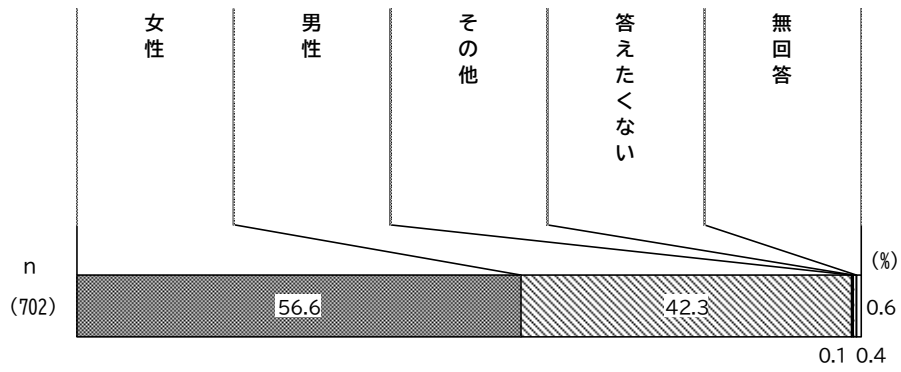
## ～ 目次 ～

1. 回答者の属性 ..... 1
2. 男女平等参画の意識について ..... 2
3. 家庭生活について ..... 4
4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について ..... 5
5. 女性の活躍について ..... 6
6. コロナ下での行動変化について ..... 8
7. 性の多様性について ..... 8
8. 地域・防災について ..... 10
9. 暴力（DV、ハラスメント）について ..... 11
10. 男女平等参画を進めるために必要な施策について ..... 12

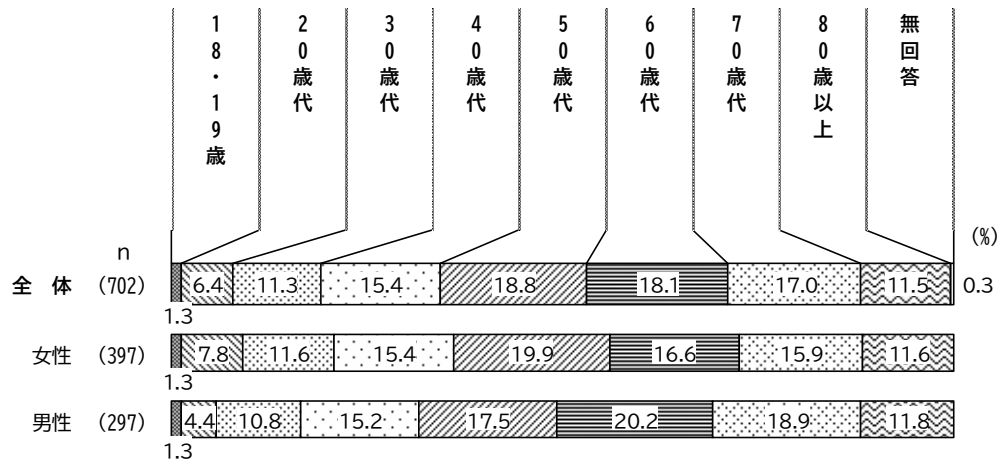
調査の概要	
調査設計	調査対象：市内在住の満18歳以上の市民 2,000人 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出 調査方法：郵送配布、郵送回収またはWeb回答 調査期間：令和4（2022）年10月19日（水）～令和4（2022）年11月9日（水） 有効回収数：全体 702人（有効回収率：35.1%） 女性 397人、男性 297人、その他・答えたくない 4人、無回答 4人
概要版の見方	<ul style="list-style-type: none"><li>・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。</li><li>・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しています。従って、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。</li><li>・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。</li><li>・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。</li></ul>

# 1. 回答者の属性

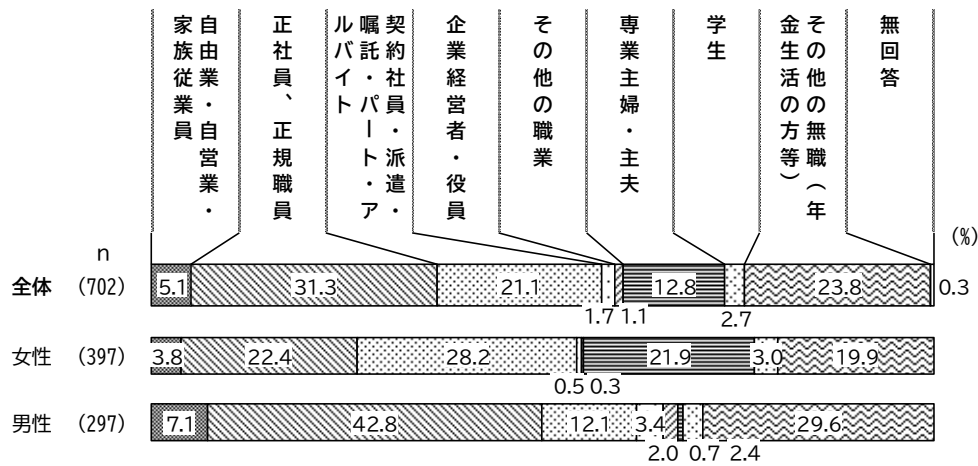
## (1) 性別



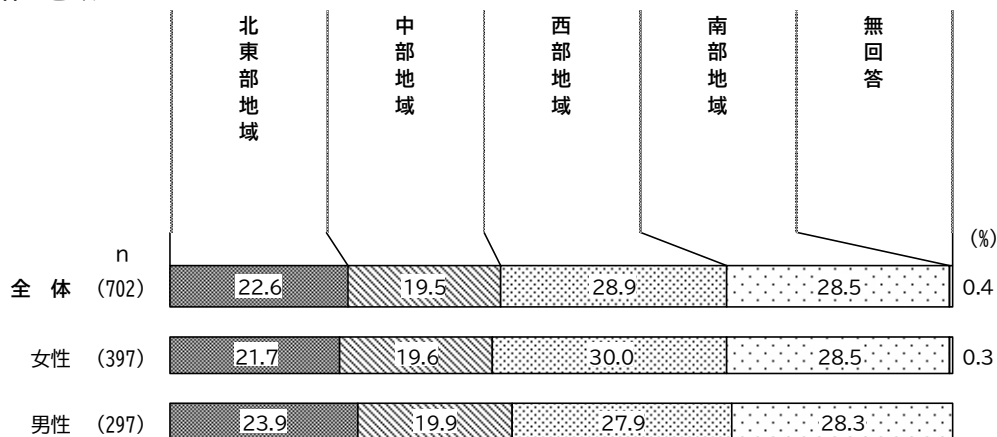
## (2) 年齢



## (3) 主な職業



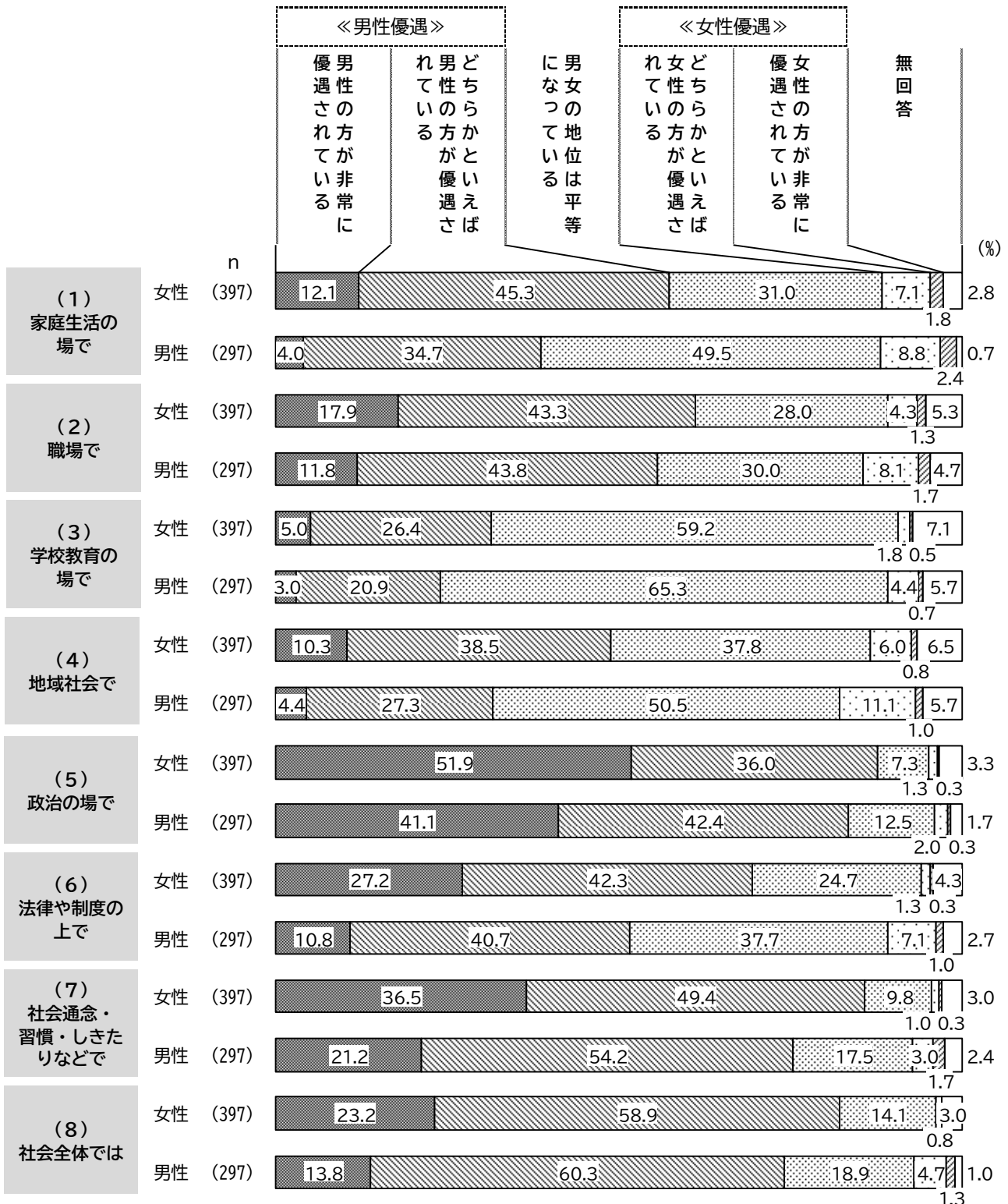
## (4) 居住地域



## 2. 男女平等参画の意識について

### ◇男女の地位の平等感

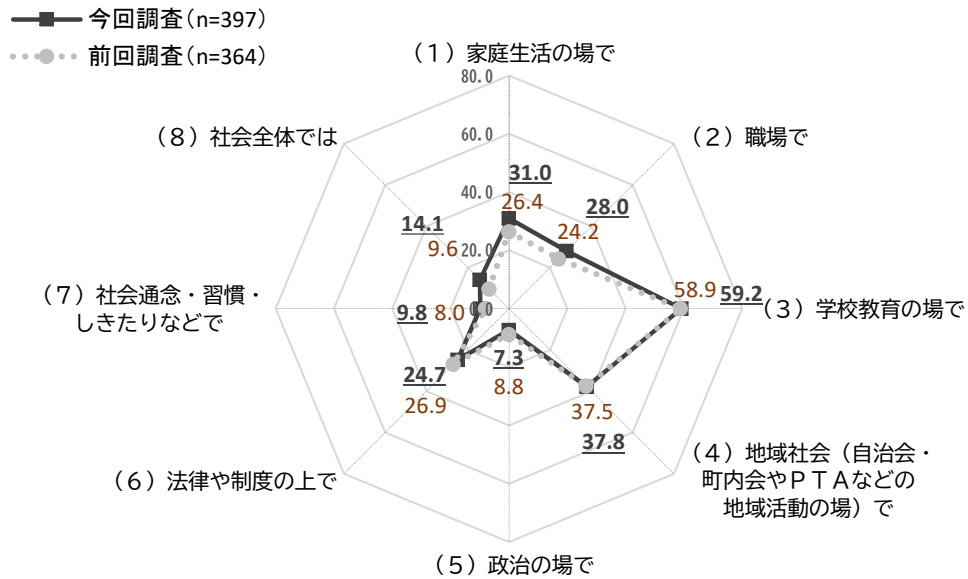
7つの分野および『社会全体では』における男女の地位の平等感について、男女ともに「男性優遇」（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）は『政治の場』で最も多くなっています。また、すべての分野で女性は男性より「男性優遇」が多くなっています。



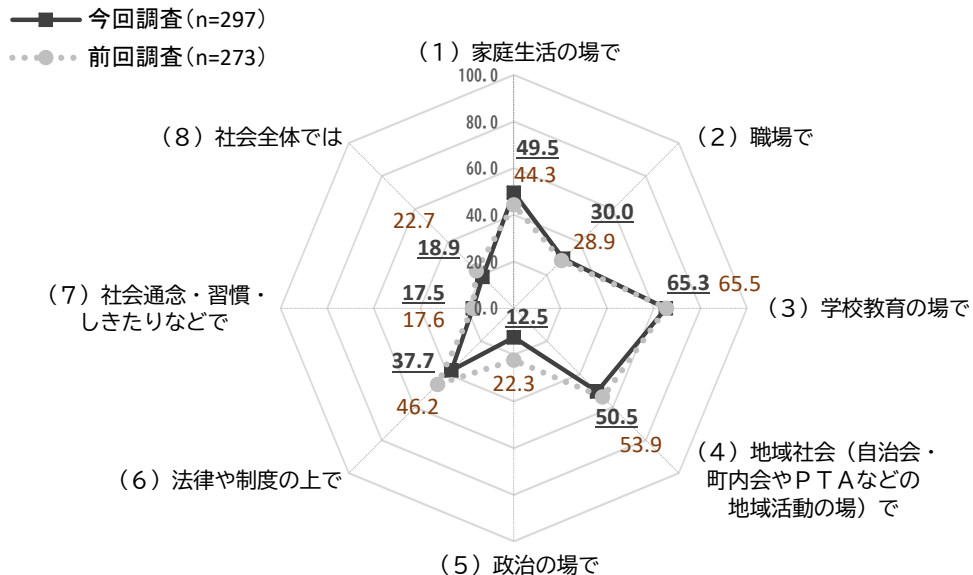
## ■前回調査との比較

男女の地位の平等感について、「男女の地位は平等となっている」と回答した割合を前回調査と比較すると、女性は『家庭生活の場』、『職場』、『社会全体』で今回調査が前回調査を約4～5ポイント上回っています。男性は『家庭生活の場』と『職場』で今回調査が前回調査を上回っていますが、それ以外の項目では前回調査を下回り、特に『政治の場』、『法律や制度の上』で約9～10ポイントの差が生じています。

### 女性



### 男性



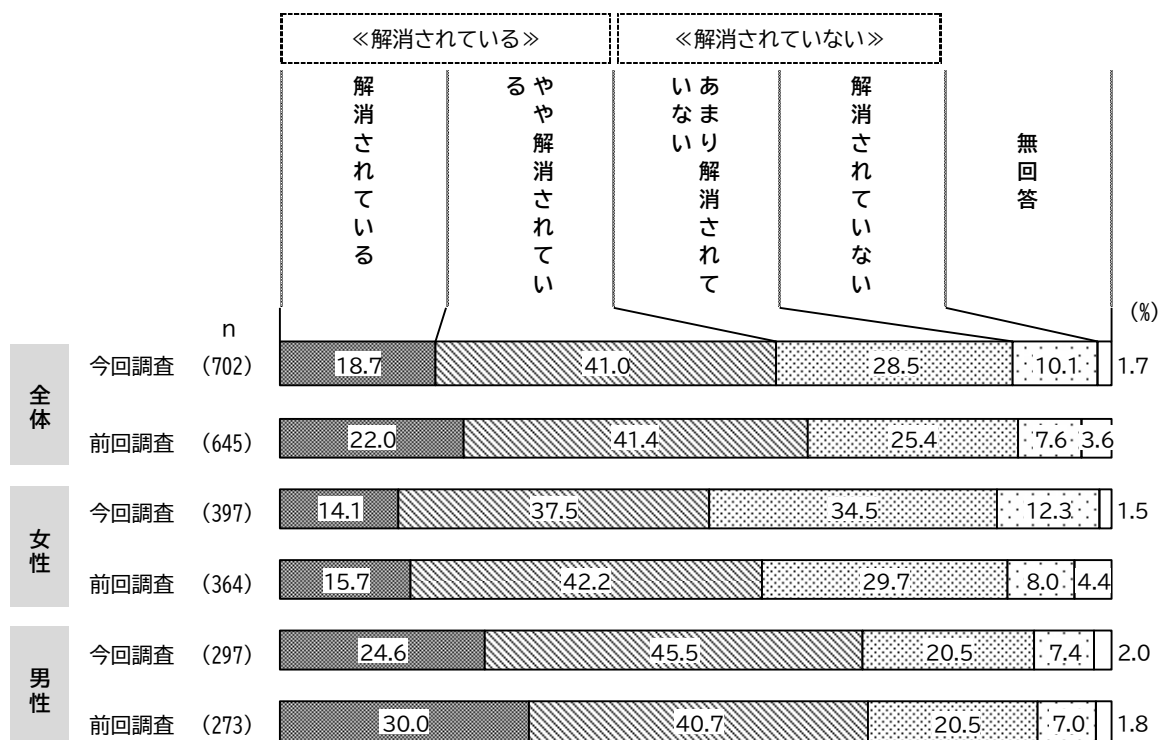
※数値の太字、下線ありが今回調査

※前回調査：平成29（2017）年「男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査」

### ◇固定的性別役割分担意識についての考え

固定的性別役割分担意識について、男女ともに「解消されている」（「解消されている」と「やや解消されている」の合計）が「解消されていない」（「解消されていない」と「あまり解消されていない」の合計）を上回っています。また、男性は女性より「解消されている」が多くなっています。

前回調査と比較すると、「解消されていない」が女性で今回調査は46.8%、前回調査は37.7%となっており、前回調査から9.1ポイント増加しています。

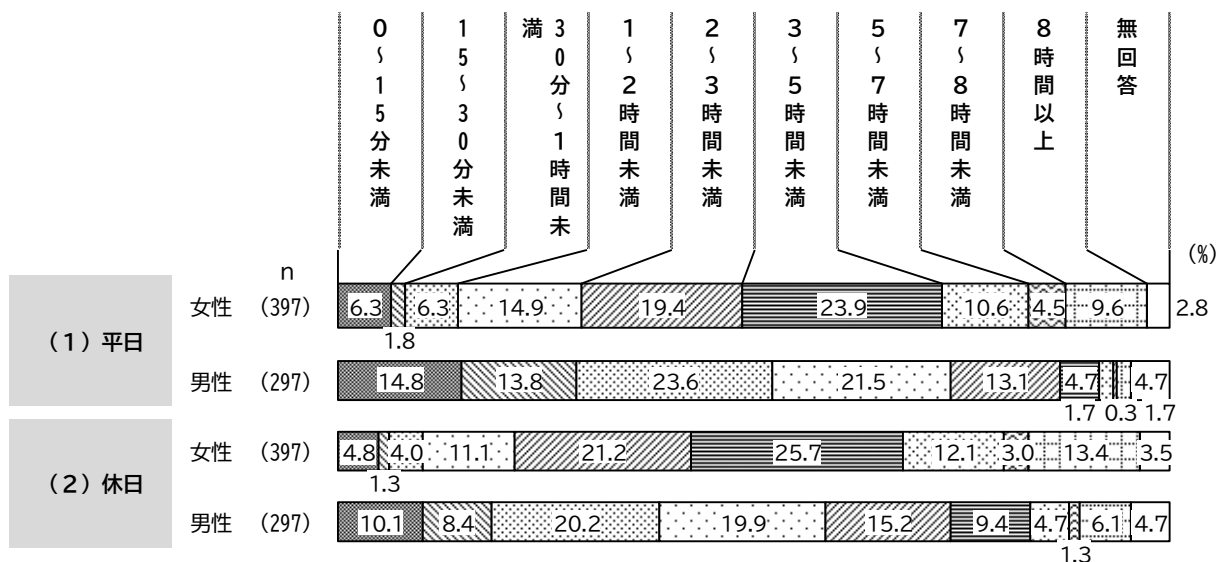


※前回調査：平成 29（2017）年「男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査」

## 3. 家庭生活について

### ◇家事・育児・介護などに携わっている時間（平日、休日）

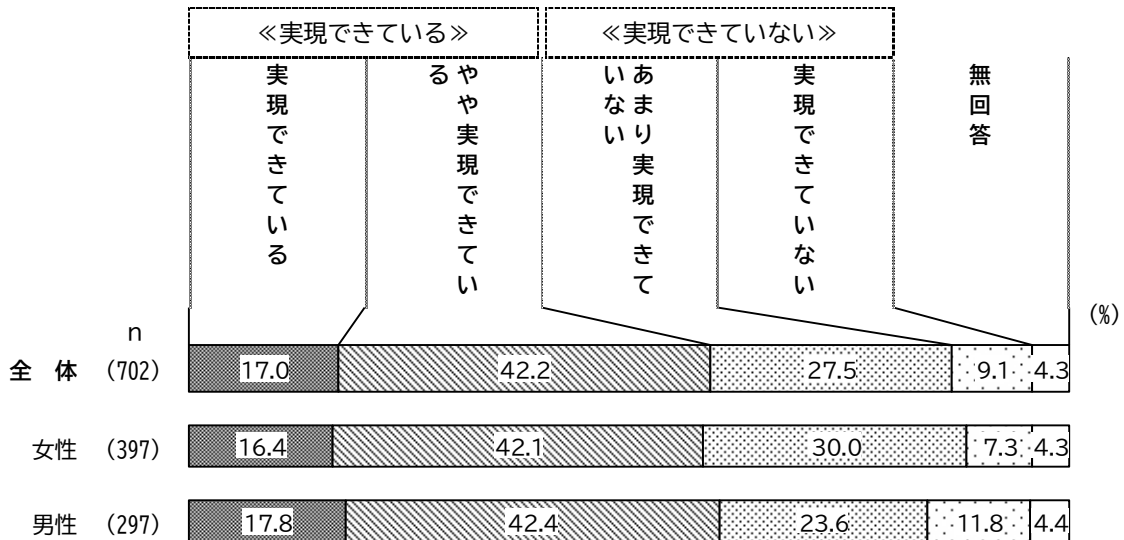
家事・育児・介護などに携わる1日あたりの時間について、『平日』、『休日』ともに女性は「3～5時間未満」、男性は「30分～1時間未満」が最も多くなっています。



#### 4. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

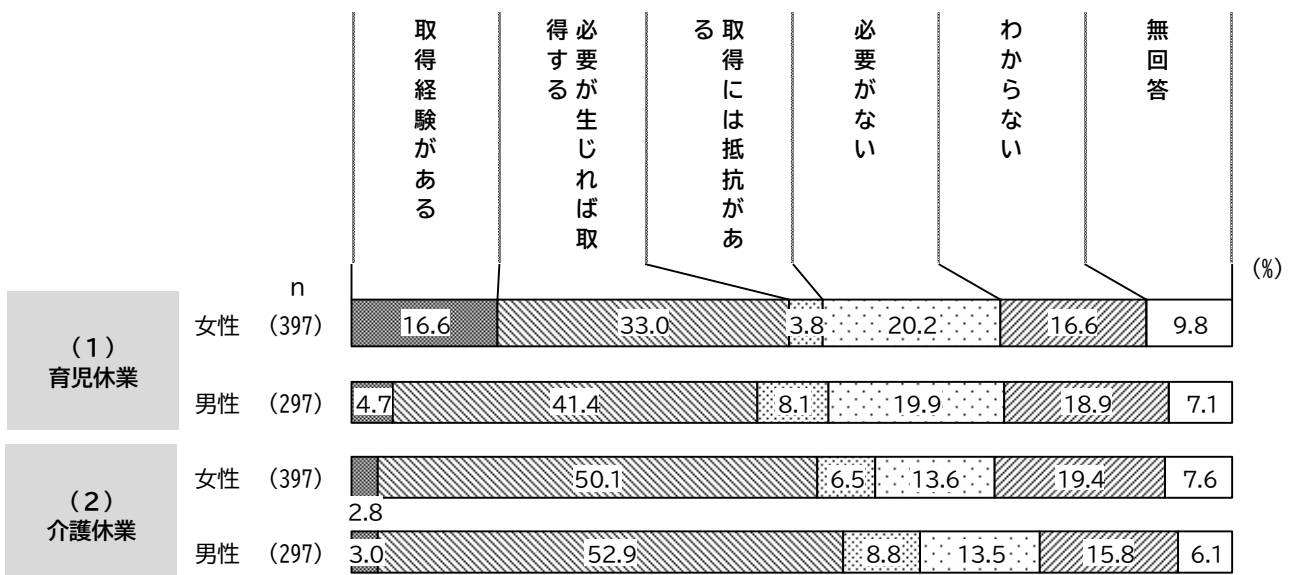
##### ◇「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の実現状況

ワーク・ライフ・バランスの実現状況について、男女ともに「実現できている」（「実現できている」と「やや実現できている」の合計）が「実現できていない」（「実現できていない」と「あまり実現できていない」の合計）を大幅に上回っています。



##### ◇育児休業、介護休業の取得経験、取得意向

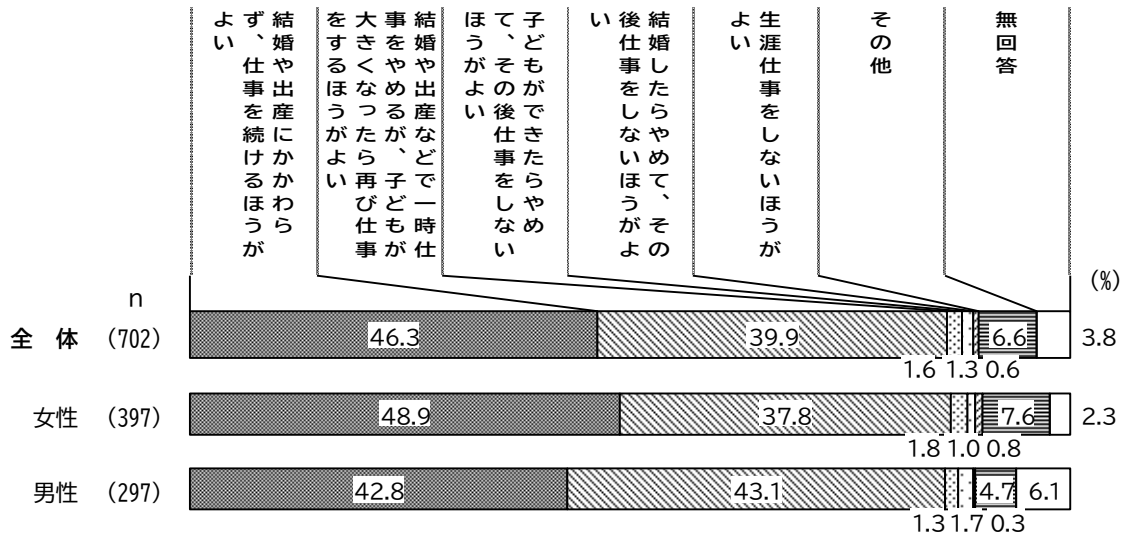
育児休業、介護休業の取得経験、取得意向について、「取得経験がある」は育児休業で女性が男性を上回っていますが、介護休業では同程度となっています。



## 5. 女性の活躍について

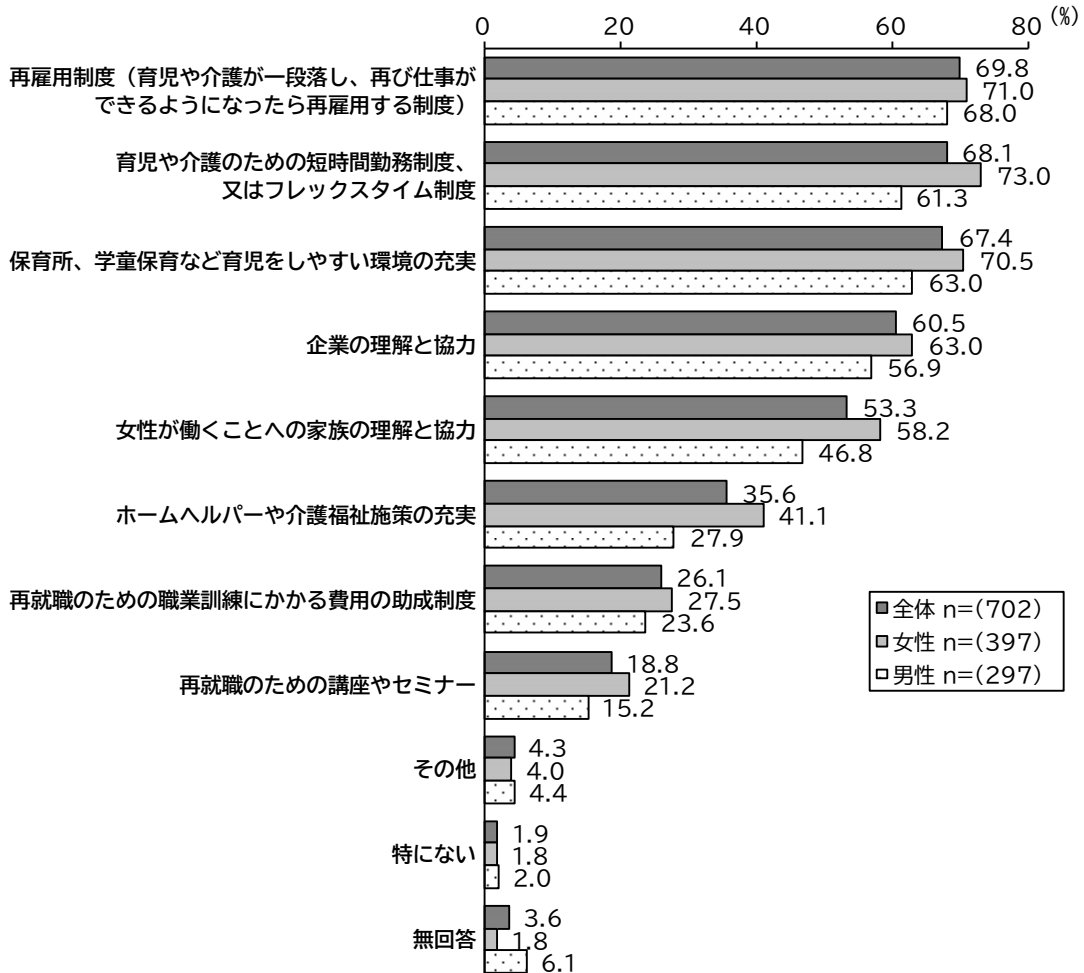
### ◇女性の働き方について

女性の働き方について、女性は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」、男性は「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい」が最も多くなっています。



### ◇一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する際に役立つもの

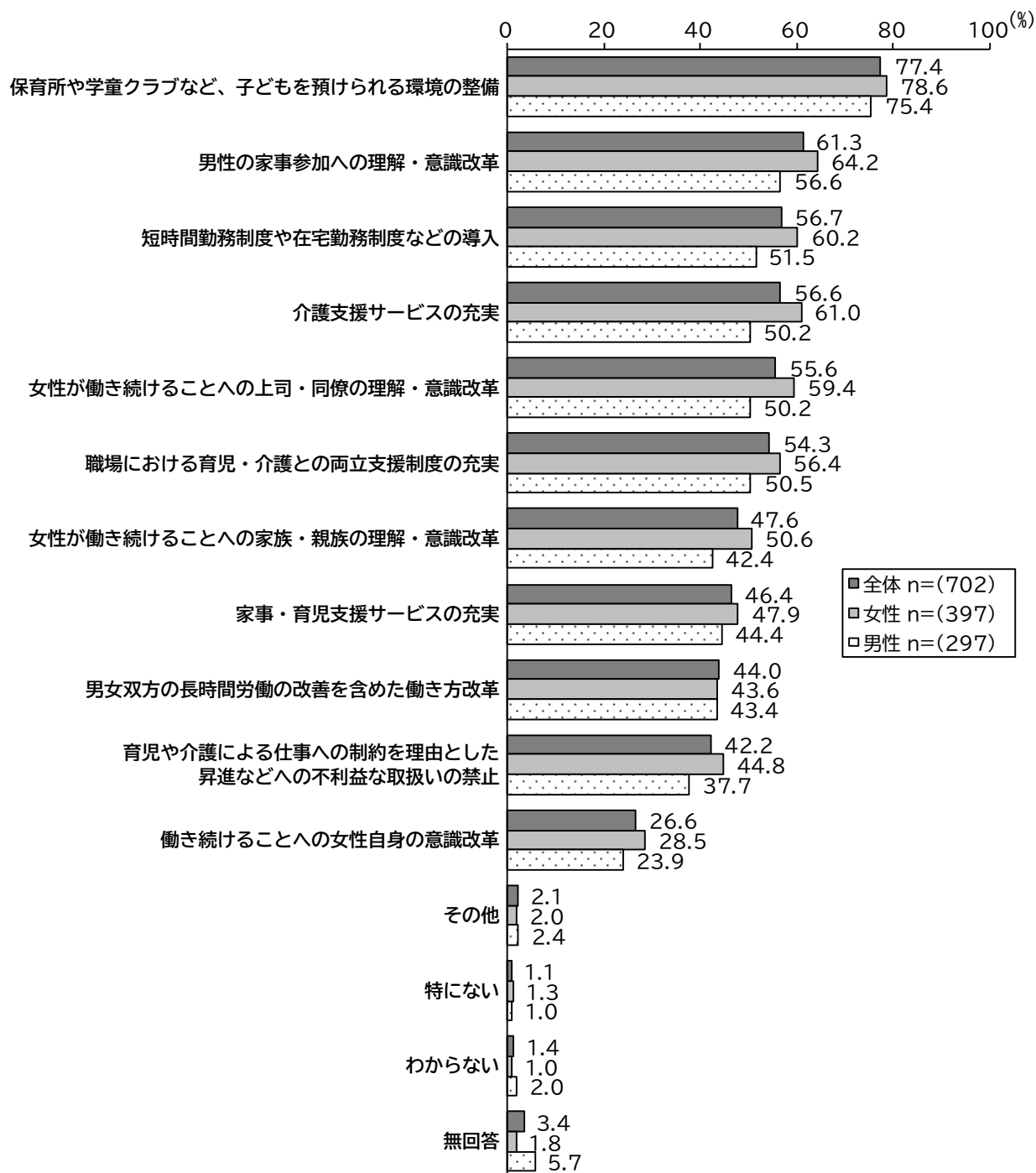
一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する際に役立つものについて、「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）」が最も多くなっています。





## ◇女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと

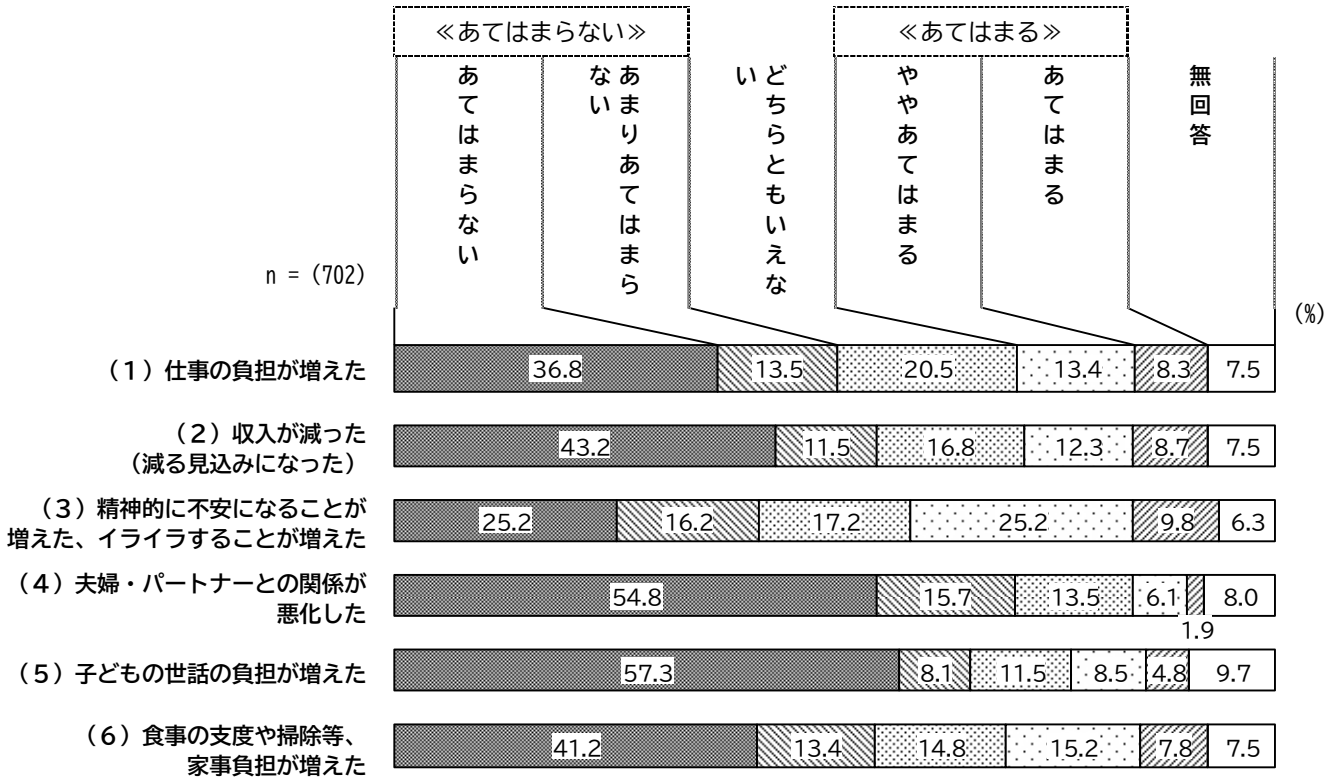
女性が妊娠・出産、育児、介護などを理由に離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことについて、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多く、「男性の家事参加への理解・意識改革」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が続いています。



## 6. コロナ下での行動変化について

### ◇コロナによる生活や行動の変化

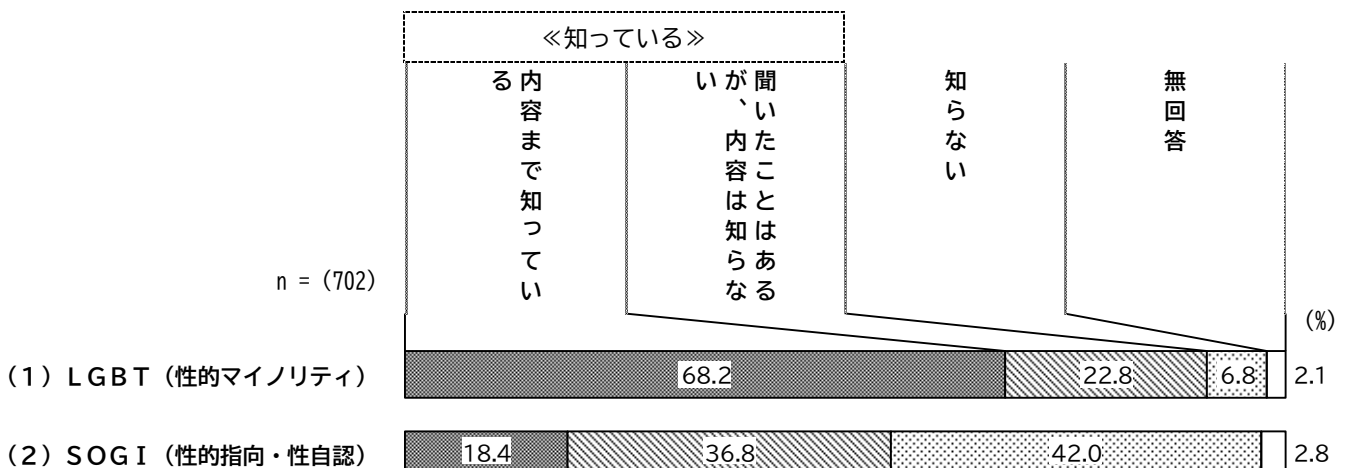
新型コロナウイルス感染症拡大による変化について、『精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた』で「あてはまる」（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）が3割台と多くなっています。



## 7. 性の多様性について

### ◇性の多様性に関する言葉の認知度

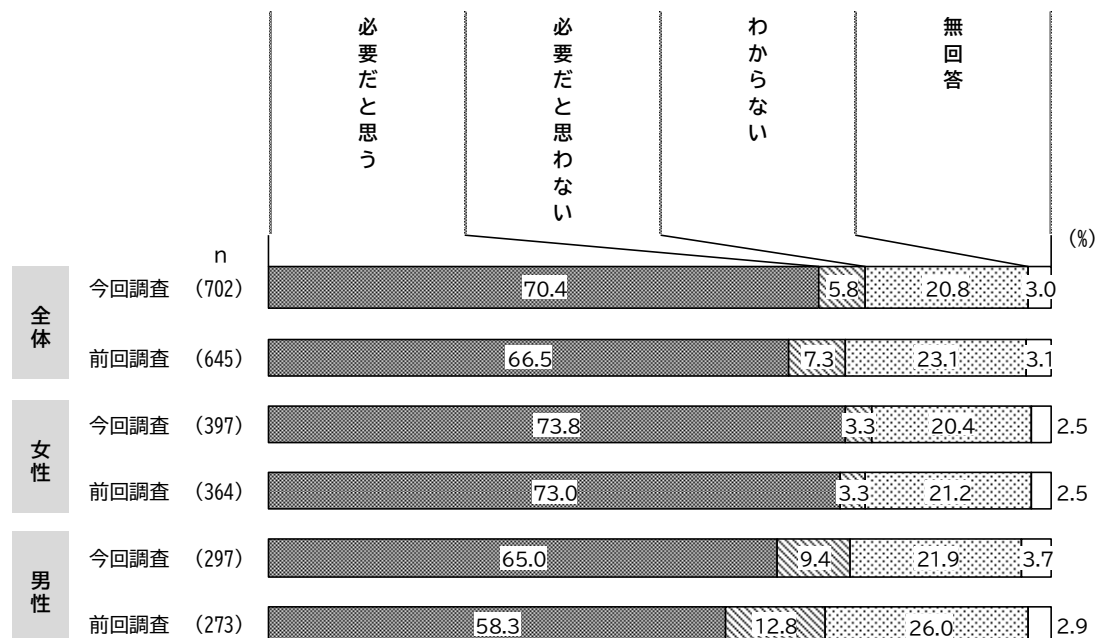
性の多様性に関する言葉の認知度について、「知っている」（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計）は『LGBT（性的マイノリティ）』が9割台、『SOGI（性的指向・性自認）』が5割台となっています。



## ◇性的マイノリティへの取り組みについての考え方

性的マイノリティへの取り組みを進めることについて、男女ともに「必要だと思う」が最も多く、女性で7割台、男性で6割台半ばとなっています。

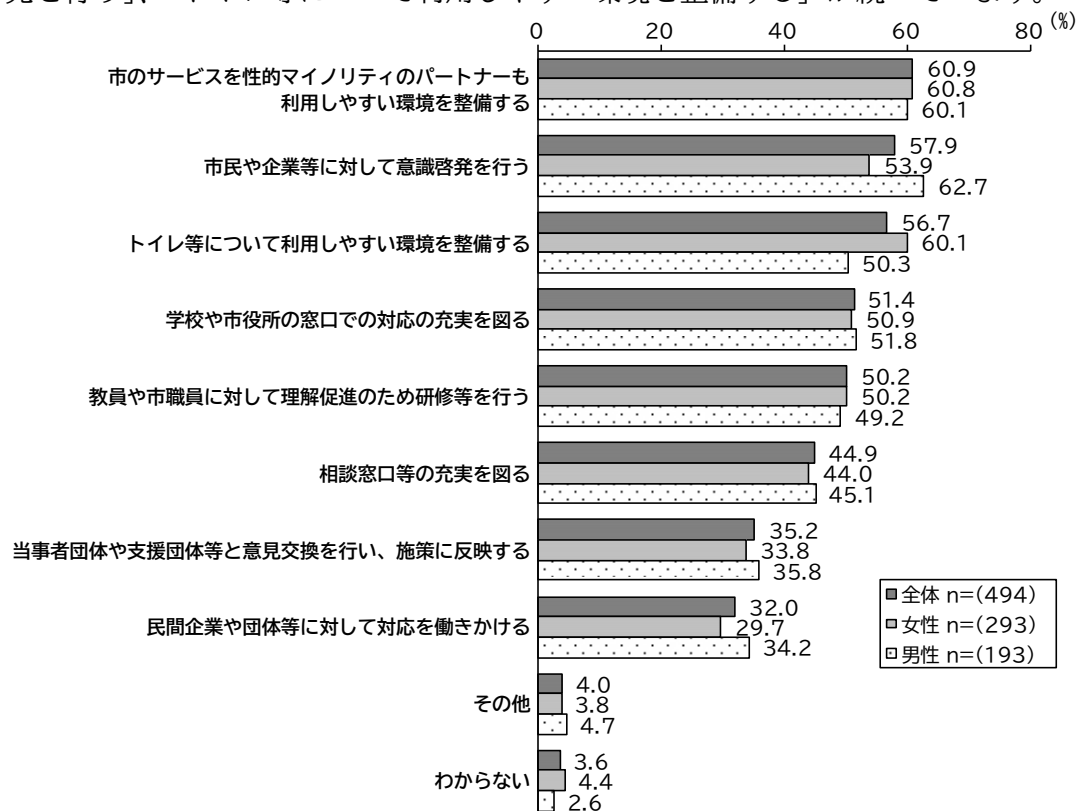
また、前回調査と比較すると、「必要だと思う」が男性で今回調査は65.0%、前回調査は58.3%となっており、前回調査から6.7ポイント増加しています。



※前回調査：平成 29（2017）年「男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査」

## ◇性的マイノリティの人が生活しやすくなるために必要な対策

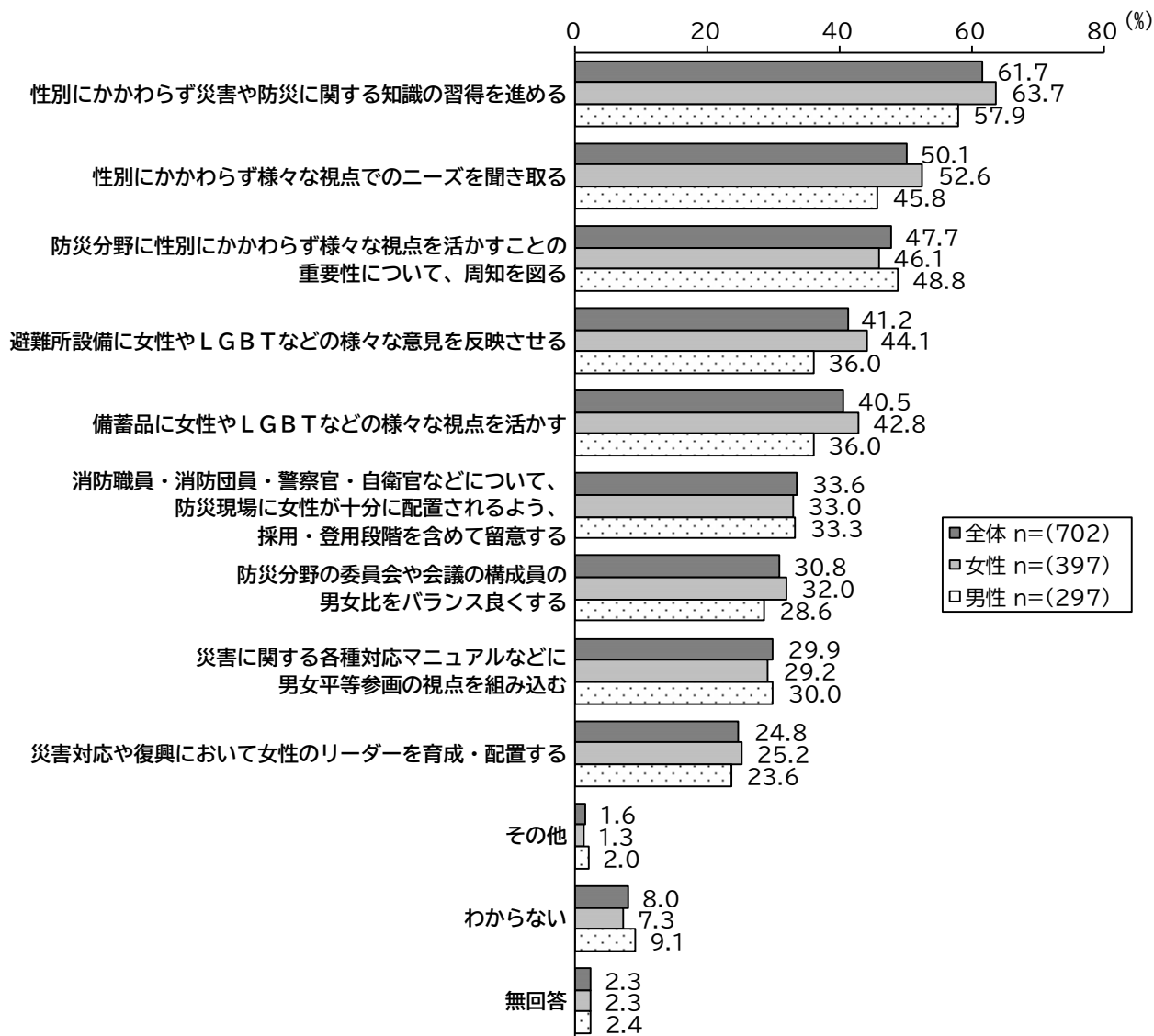
性的マイノリティの人が生活しやすくなるために必要な施策について、「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する」が最も多く、「市民や企業等に対して意識啓発を行う」、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する」が続いています。



## 8. 地域・防災について

### ◇防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと

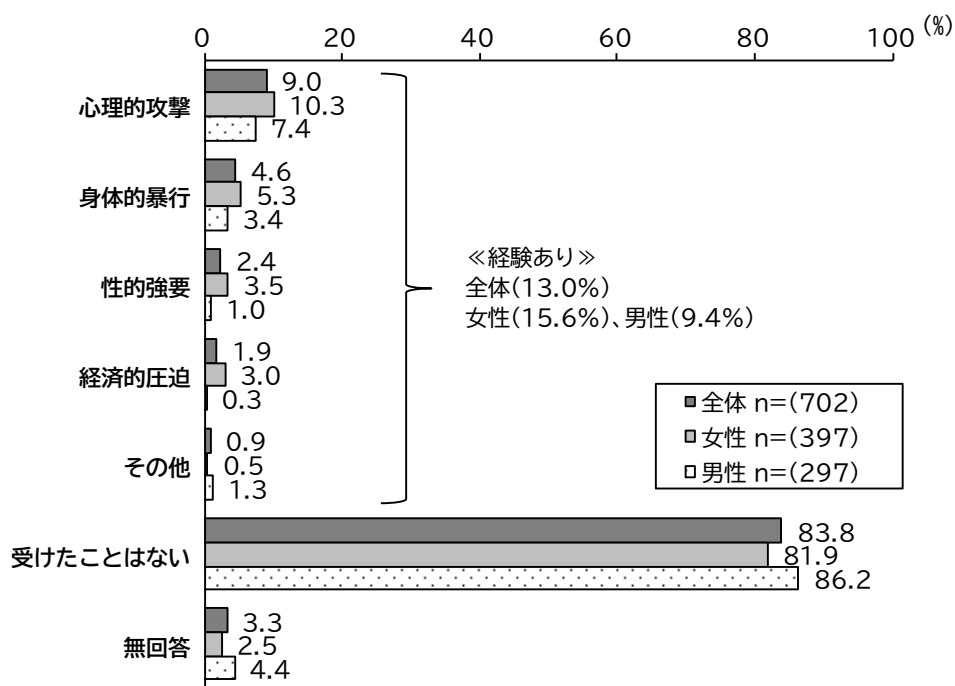
防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うことについて、「性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める」が最も多く、「性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る」、「防災分野に性別にかかわらず様々な視点を活かすことの重要性について、周知を図る」が続いています。



## 9. 暴力 (DV、ハラスメント) について

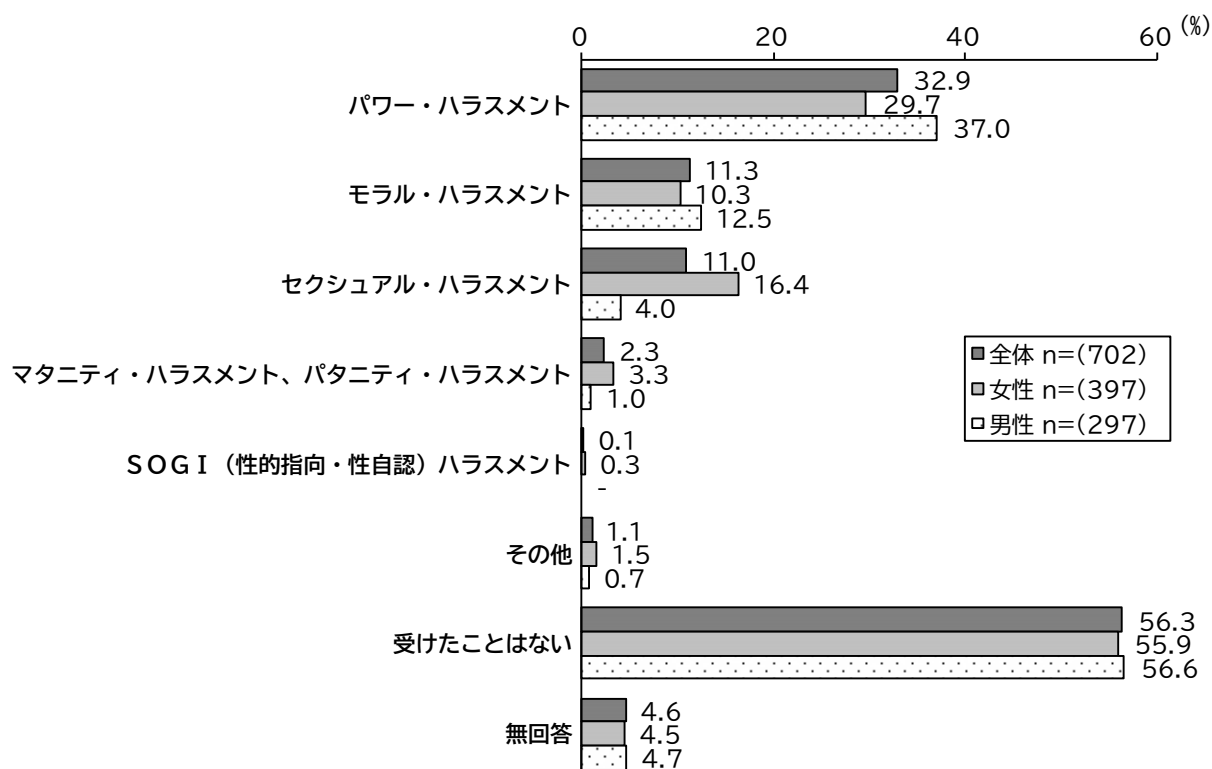
### ◇配偶者等から暴力を受けた経験

配偶者等から暴力を受けた経験について、経験がある人は女性で1割台半ば、男性で約1割となっています。また、受けた暴力では、「心理的攻撃」が最も多く、「身体的暴行」、「性的強要」、「経済的圧迫」が続いています。



### ◇職場等でハラスメントを受けた経験

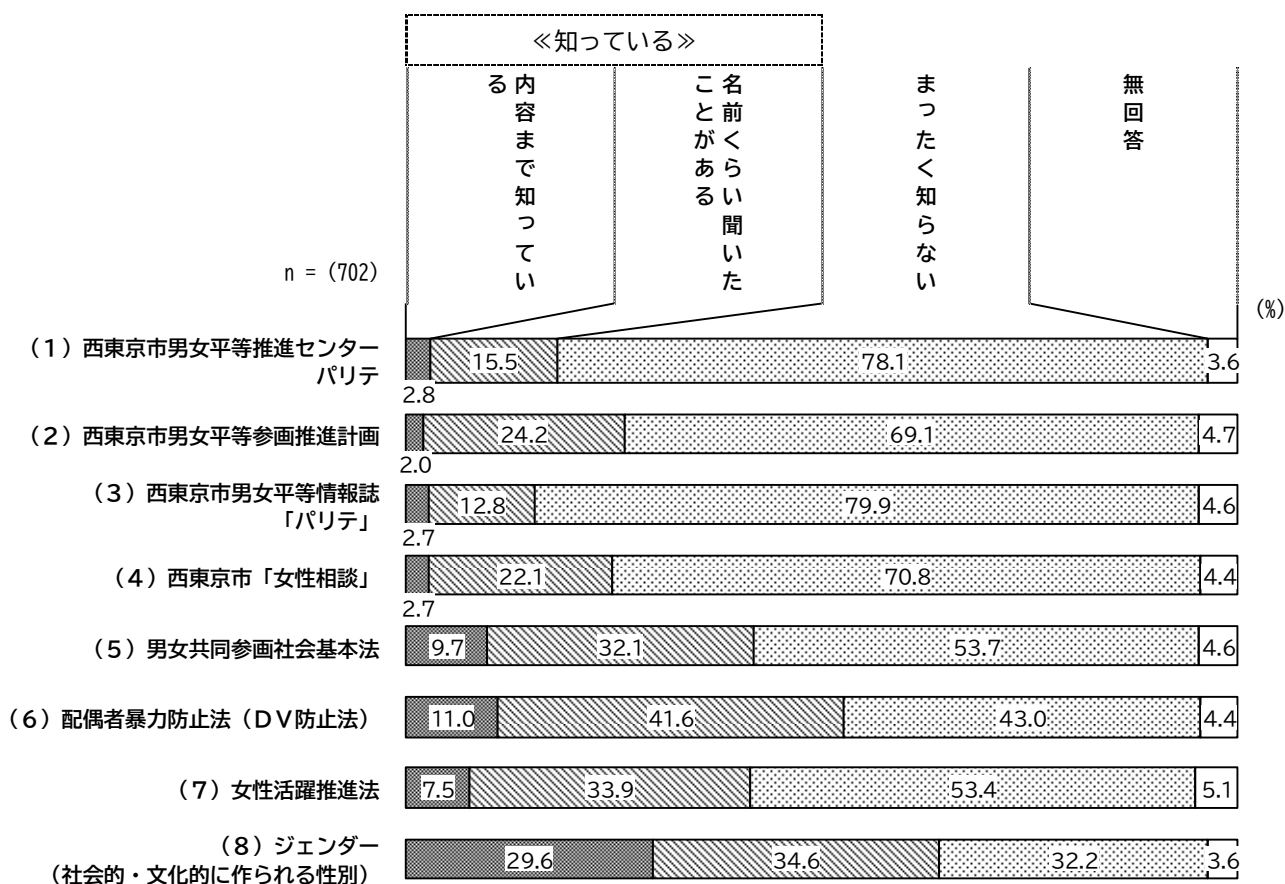
職場等で受けたハラスメントについて、「パワー・ハラスメント」が最も多く、「モラル・ハラスメント」、「セクシュアル・ハラスメント」が続いています。



## 10. 男女平等参画を進めるために必要な施策について

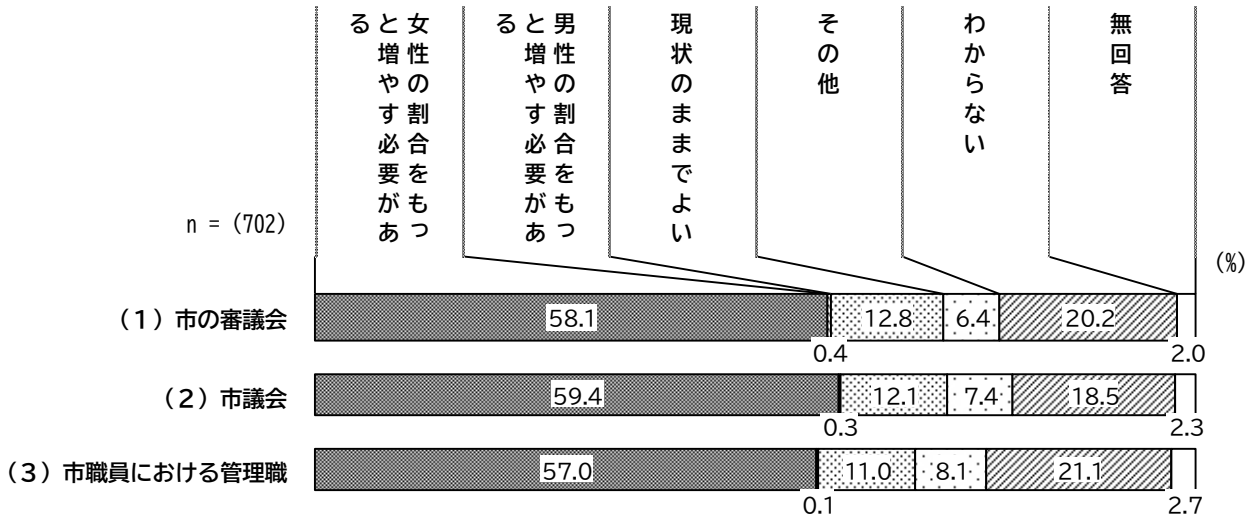
### ◇西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度

西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度について、「知っている」（「内容まで知っている」と「名前くらい聞いたことがある」の合計）が『ジェンダー（社会的・文化的に作られる性別）』で最も多くなっています。一方で、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』、『西東京市男女平等推進センター パリテ』、『西東京市「女性相談」』で「まったく知らない」が7割台となっています。



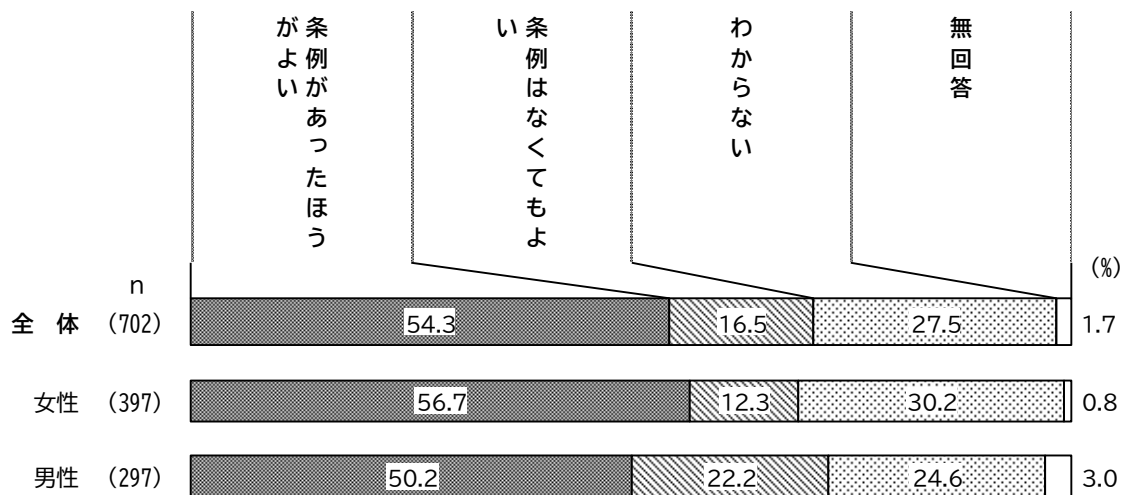
### ◇市の審議会と市議会、市職員における管理職の女性の割合についての考え

市の審議会と市議会、市職員における管理職の女性の割合について、『市議会』、『市の審議会』、『市職員における管理職』で「女性の割合をもっと増やす必要がある」がいずれも過半数を占めています。



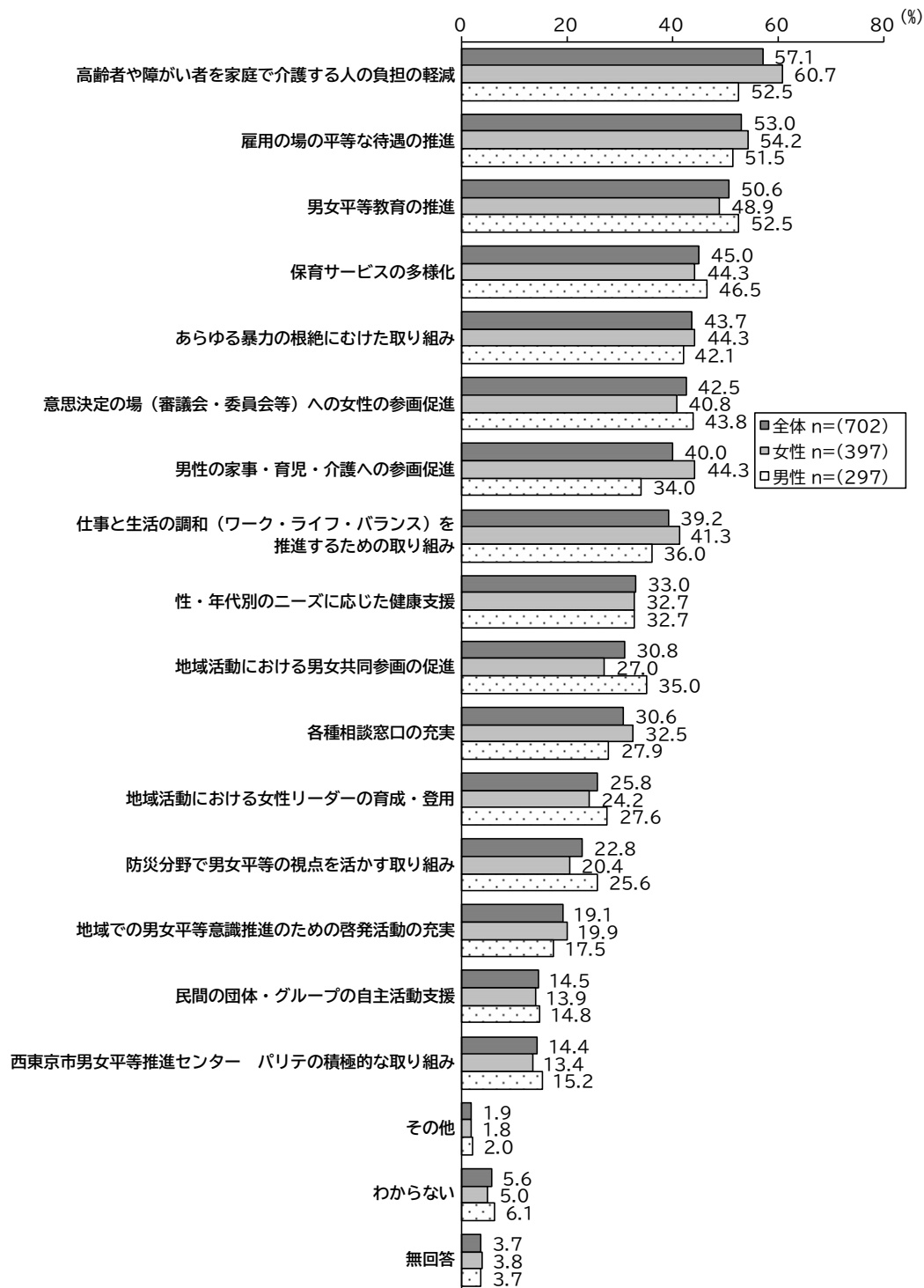
### ◇男女平等推進条例制定についての意向

男女平等推進条例制定について、「条例があったほうがよい」が「条例はなくてもよい」を大幅に上回っており、男女ともに「条例があったほうがよい」が過半数を占めています。



## ◇西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策

「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が最も多く、「雇用の場の平等な待遇の推進」、「男女平等教育の推進」が続いています。



## 男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査報告書

— 概要版 —

令和5年3月

発行：西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課 男女平等推進係  
 〒202-0005 東京都西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内男女平等推進センター パリテ  
 電話 042-439-0075 Email:kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp